



第74回日本消化器外科学会総会

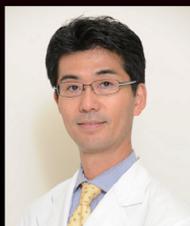
ランチョンセミナー 23

HITACHI  
Inspire the Next

セミナーテーマ

# 進化する大腸ステンティング

司会



齊田 芳久 先生

東邦大学医療センター 大橋病院 外科 教授



演者 1



Bridge to Surgery目的大腸ステント治療  
-ステントの進化と閉塞性直腸癌まで適応の進化-

齊藤 修治 先生

横浜新緑病院 消化器センター長 外科部長

演者 2



真の患者利益を追求した  
大腸ステンティング

吉田 俊太郎 先生

東京大学医学部附属病院 光学医療診療部 助教



2019年 7/18 (木) 12:10-13:00

グランドプリンスホテル新高輪  
国際館パミール 青玉 (第10会場)

〈ランチョンセミナーは整理券制です〉

- 整理券は、会場の発券機もしくはスマートフォンをお持ちの方は日本消化器外科学会総会専用アプリから取得可能です。
- 整理券発券機は、グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール1階ロビーに設置しています。
- 日本消化器外科学会総会専用アプリの取得方法は、第74回Webサイトまたは当日配布のプログラム集でご確認ください。
- 整理券の枚数には限りがございます。悪しからずご了承ください。
- ランチョンセミナー整理券は、開始5分後に無効となります。

共催：第74回日本消化器外科学会総会／株式会社日立製作所

# 進化する大腸ステンティング

## Summary

抄録

### 演題1

## Bridge to Surgery 目的大腸ステント治療 - ステントの進化と閉塞性直腸癌まで適応の進化 -

演者: 齊藤 修治 先生

横浜新緑総合病院 消化器センター長 外科部長

悪性大腸狭窄に対する大腸ステント治療は、手術前処置としての Bridge to Surgery (BTS) 目的にも使用されている。BTS に関しては、欧州消化器内視鏡学会臨床ガイドラインには「標準治療としては推奨できない」とあるが、さらに「ASA $\geq$ 3 または 70 歳以上など手術リスクが高い症例に対しては考慮される」ともある。今回、欧州ガイドラインや最近の文献を解説するとともに、ステントを安全に正確に留置するためのステントそのものの進化と、留置時の工夫により適応となりつつある閉塞性直腸癌に対する BTS 目的でのステント留置のコツと問題点を紹介する。

### 演題2

## 真の患者利益を追求した大腸ステンティング

演者: 吉田 俊太郎 先生

東京大学医学部附属病院 光学医療診療部 助教

大腸ステント留置術が悪性大腸閉塞に対して 2012 年より保険適用となったことで、胆癌患者の生活の質を保ちながら、より生理的な消化管機能の温存が可能となった。本治療は、大腸ステント安全手技研究会などの報告により、本邦における悪性大腸閉塞に対する大腸ステント留置術はその有用性および安全性が明らかとなり、広く用いられるようになってきている。現在の問題点は、どの対象にどのタイミングで本治療を実施することが、腫瘍学的なエンドポイントなどの真の患者利益に寄与するかである。今回、このテーマにつき既報や我々のデータに基づき発表させていただく。今後、本発表が議論のきっかけになることを望む。

グランドプリンスホテル新高輪  
国際館パミール 青玉 (第10会場)

